

強度行動障害支援者養成研修（実践研修（指導者研修））のねらい

強度行動障害支援者養成研修とは、障害福祉サービス事業所や施設で、行動障害が著しい人の支援に直接携わる、あるいはその見込みのある支援者を対象に、その行動の背景にある障害特性を理解し、どのような対応を行うか、その基本的ノウハウを学ぶ研修です。そしてこの研修は、基礎研修と実践研修の2つに分かれています。

実践研修は、固有の障害特性の理解から、具体的な支援方法を導き出す基本的なプロセスを学ぶことに主眼を置いています。個別支援計画に則り日常的な支援を行う際の「障害特性への配慮」を自ら工夫し、計画すること、さらに計画通り実施した後の評価を行い、今後どうすべきかを考えることができることが大きな目標です。ただし、この研修を修了しただけで、意味ある計画・実施・評価ができるようになるわけではありません。職場に戻り、知識が豊富で、強度行動障害者支援の経験が豊富な職場の先輩たちに相談し、指導を受けながら（つまりOJTを積み重ね）成長していく、第一歩としての研修です。

2日間で、講義4時間（強度行動障害のある者へのチーム支援、強度行動障害と生活の組み立て）、演習8時間（障害特性の理解とアセスメント、環境調整による強度行動障害の支援、記録に基づく支援の評価、危機対応と虐待防止）で構成されたカリキュラムです。決して長い時間ではありません。可能な限り、注意集中を図り、研修に取り組んで下さい。

平成27年度の障害福祉サービス等報酬改定では、施設入所支援、短期入所、共同生活援助の「重度障害者支援加算」において、この強度行動障害支援者養成研修の修了や障害特性に配慮した詳細な支援計画シートや記録が必須となりました。また、この研修は、行動援護の従業者の要件でもあり、新たに創設された重度訪問介護における「行動障害支援指導連携加算」にも関係してきます。昨年からの強度行動障害支援者養成研修の受講ニーズは、都道府県において急激に高まり、今年度もその勢いが続くものと推測されます。今回の指導者研修は、各都道府県で強度行動障害支援者養成研修を運営する人材養成を目的とした独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園が運営する研修です。指導者研修の修了者が、地元の都道府県に戻り、スムーズに研修を開催し、質の高いプログラム運営ができることを強く望んでいます。

強度行動障害のある人が「虐待を受けている」というニュースが絶えません。また、その行動障害ゆえに、サービス提供を「拒否された」という話も珍しくありません。一部の先駆的な障害福祉サービス事業所や施設で、興味関心の高い優秀な人材だけが強度行動障害者の支援を行う時代ではありません。指導者研修を修了された皆さんには、是非とも、都道府県のニーズに見合った人数の研修を開催し、受講者一人ひとりに「障害特性を適切に把握できるよう」に運営に積極的に携わっていただきたいと願っています。

平成28年7月7日（木）

平成28年度強度行動障害支援者養成研修（基礎研修（指導者研修））プログラム運営委員一同